

時代を『読む』

渡辺 利夫



語訳が出版されたことは幸いであつた。
安徽省農村の無残な疲弊から抜け出る道は都市への出稼ぎしかない。彼らが「民工」である。「おのれの命にも等しい土地を手放し、生活の頼りの村を離れ、黙々と励んできた農業をやめ、さびしきくちやきや、つ

果を昨年、「中国農民工調査報告書」として公表した。これによれば、全国の民工総数は一億一千八百万人に及び、その数は都市就業者の46%に相当し、建設業、製造業、サービス業のそれぞれ80%、68%、50%を占めるといふ。こういうネガティブな現象については過小に報告するのが中国政府のつねであるが、それにしては何という規模の大きさだろうか。民工の47%に雇用契約がなく、48%が給料の遅配・欠配を経験している」とまでが記載されている。

中国を悩ます民工群

らきを受けることになると知っていたながら、各地の都市にだけ込んでくる農民たち「の姿を、夫妻は痛恨の思いを込めて描いている。

近年、広東省の珠江デルタを中心とした「民工荒」(深刻な民工不足)が社会問題化している。労働力の「無限供給」の神話を信じ、労働条件の改善にま

民工問題の深刻さに政権中枢部も無関心ではいられない。事実、国務院はこの問題に関する研究室課題組を組織し、その成

差別と嘲笑の対象となっている。 (拓殖大学学長)

中国問題の本質は農村貧困の中にある。中国でも家計調査がよまゆやへ利用できるようになった。手元に最新の家計調査報告書二〇〇四年版がある。これによると同年の都市の平均家計所得は九千四百二十二元である一方、農村のそれは三千九百七十六元である。
しかし農村内の所得格差は都市内のそれと同様に著しい。農村の最下位20%所得階層を形成する四千三百万戸の所得水準は都市平均所得の11%である。都市の最上位20%階層の所得と比べればわずか0.5%である。

農村の最下位20%階層の家計貯蓄はマイナスであり、最下位40%階層でほとんどゼロ、最下位60%階層でよまゆやへわずかなプラスとなる。おそく全農家の約半分の家計の貯蓄はマイナスもしくはゼロなのである。これでは自助努力によつてみずから所得上昇を図ることは困難である。彼らの貧困はますます厳しいものとなつていくにちが

作家である陳桂棟・春桃夫妻は安徽省の五十の県を三年余の歳月を費やしてつぎつぎに観察し、農民の絶望的な貧困と酷薄の運命について記述した著作「中国農民調査」を〇四年一月に上梓した。この著作は政府により同年三月に発禁処分を受けた。一昨年秋、文藝春秋により日本